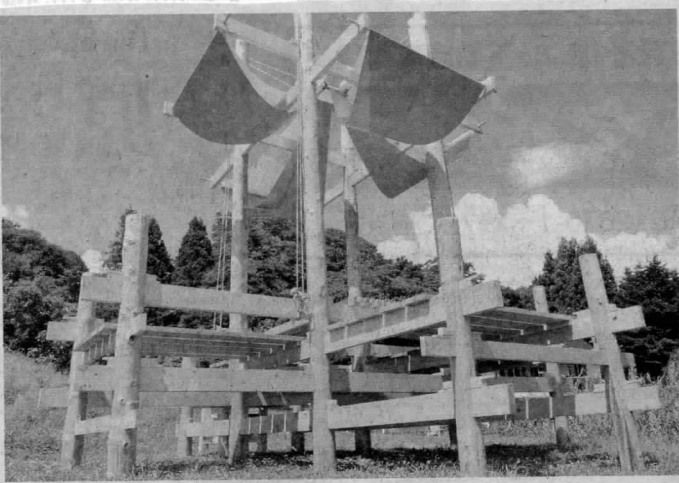


伝統工法「貫構法」学ぼう

建築技術の記録や保存に取り組む「貫構法研究会」と富士見町の井戸尻考古館は19日、八ヶ岳山麓の民家に見られる伝統工法「貫構法」を学ぶイベントを開く。
(飛矢崎貴規)



8月末まで井戸尻史跡公園に展示している貫構法で作った木やり台

民家見学やWS 19日に井戸尻考古館イベント

同会メンバーで職業能力開発総合大学の樋口貴彦准教授の案内で、考古館周辺に残る貫構法を使った民家を見学したり、モデルを使って構造を体感したりできる。

昨年の乙事諏訪社御柱祭の際に、貫構法の木やり台を作成した同会。使用後は解体されていたが、8月末まで井戸尻史跡公園に移築し、展示しているのに合わせて企画した。

穴を開けた柱に材木を通し、木製のくさびを打ち込んで固定する貫構法は、くさびを使わずに組み上げていく。当日は小さなモデルを使ったワークショップや民家の見学、移築した木やり台の上で作りを学ぶ。樋口准教授は「景観の一部をつくっており、魅力ある技術。伝統を見直すきっかけにもなれば」と参加を呼び掛けている。

受講無料で、定員20人程度。午前9時に井戸尻考古館へ集合。申し込みは考古館(電話0266・64・2044)へ。